

## 進捗状況の概要（2ページ以内）

## ① 大学改革の加速

学内における事業の実施体制について、継続的に AP 事業関連の通年科目の理解を深め、学生による実習前の学習と実習後の学習を行い、実習後と年度末に成果報告会を行っている。科目内容と学内体制の基盤を強化することで、学生の学習意欲を掻き立てる場を提供することができてきている。また、現在、クォーター制への移行について緒に就いたばかりであるが、本学カリキュラム検討委員会において正式に話し合う場を創出することになった。

## ② 事業の実施体制

学内において、継続的に AP 事業関連の通年科目の理解を深め、学生による実習前の学習と実習後の学習を行い、実習後と年度末に成果報告会を行っている。また、教職員に対して危機管理セミナーを実施し、学生の学外での実習における海外渡航時の体制の再認識を行った。科目内容と学内体制の基盤を強化することで、学生の学習意欲を發揮する場を提供することができてきている。

## ③ 事業の実実施計画・継続性

事業開始当初の5か年計画を進める中で、国内外のフィールド関係者との定期的な繋がりが生まれた。事業計画の中に各フィールドの文化継承の機会や伝統行事を取り入れ、そこに学生が定期的に参与することで必然的に事業の実実施計画と継続性が確保されている。また、事業開始時の1期生らによる団体が生まれ、この団体を維持する事により前任者の蓄積した経験や知識が、学生の目線から新入生に伝達され、事業の継続と計画実行の意義が浸透した。

## ④ 事業成果の普及

成果として、学内外で本プログラムの実施状況を周知させた事により、プログラムへの興味・関心を高め、協力者や助言者によるプログラムの質の向上と規模の拡大につながった。

北遠フィールドスタディでは、観光地域づくりをテーマにして、伝統芸能の勝坂神楽や伝統野菜を地域ブランド化させ、市内外から誘客するツアーを実施し、具体的な成果をあげることができた。学生企画のツアーが新聞等に取り上げられる事により、活動に対する地域の理解も得られた。さらに、参加した学生による、発展的行動が見られた（北遠フィールドスタディから学生の自主活動団体「やまびこチャレンジ」が、ダバオ市フィールドスタディからは同じく学生の自主活動団体「浜松インターナショナルスクール」が設立された）。

このほかにも、次年度はアメリカ合衆国の南フロリダ州立大学と共同して、双方の学生による北遠フィールドスタディへの参加を計画している。ダバオ市フィールドスタディにおいては、日系フィリピンの子どもたちに対して ICT 活用した合同授業を実施している。また、ダバオ市内の南ミンダナオ州立大学との協同学習を計画している。

## ⑤ 選定されたテーマの取組を中核にした総合的な大学教育改革の取組

「DiCoRes プラス委員会」の担当者を中心に、精力的に準備や指導に取り組み、プログラムを着実に実施することができた。次年度はダバオ市フィールドスタディを実施したことにより、留学制度、海外の大学とのサマースクールの協同実施について検討している。